

※今月のみ受注の書目です。

民俗学 ご担当者さま

宮本常一 〈抵抗〉の民俗学



地方からの叛逆

(2023 年 8 月中旬刊行予定)

門田岳久 (立教大学観光学部交流文化学科准教授)[著]

四六判上製 / 416 頁 税込予価 3,300 円 ISBN978-4-7664-2903-9 C3039

👉 ココに注目!

- ・なぜ宮本常一は地方の問題に積極的に関わったのか?
- ・〈地方〉の代弁者たる宮本常一の思想の核心に迫る。
- ・民俗学の俊英による新しい「宮本常一」論!

ポスト高度経済成長期の日本において、疲弊する離島の人びとに寄り添い、彼らの自律を促すために奔走した宮本常一の思想や活動は完全なる敗北だったのか。単なる民俗学者ではなく、地方の代弁者として活動した宮本常一の思想の核心に迫る。

対象 民俗学研究者、学生 / 日本戦後思想研究者 / 一般 (戦後史に関心のある層)

類書 福田晴子『宮本常一の旅学』(八坂書房)

【営業部からのおすすめポイント】

宮本常一と言えば、柳田國男、南方熊楠、折口信夫と並ぶ民俗学界のビッグネームですが、本書では斯界の巨人としてではなく、当時広がっていた地域振興運動を構成する一個人としての宮本に着目し、行政と地域住民との間を取り持ち、運動を自律的なものへと導こうとしたメディエーターとしての宮本常一論を展開します。地方創生が叫ばれる現在にこそ、見直されるべき視点かと思いますので、ぜひ積極的なご発注をお願いいたします。

(乙子)

👉 目次、注文書、関連既刊を裏面に掲載! ぜひご確認ください!

【目次】

はじめに

第1章 〈地方〉をめぐるまなざし

- 1 島を出ること、残ること
- 2 島へのまなざし
- 3 地元を生きる自己
- 4 残される側の視点

第2章 宮本常一とは誰か

- 1 宮本常一の生い立ち
- 2 民俗学とその周辺における宮本評価
- 3 離島振興と開発主義
- 4 反観光闘争と内発的發展

第3章 「離島性」の克服

——宮本常一における離島開発と観光批判

はじめに

- 1 道路建設と資本主義
- 2 島の自立と観光
- 3 実践性をめぐる評価
- 4 おわりに

第4章 宮本常一の〈速度〉と移動する身体

はじめに——オートモビリティと拡張現実

- 1 旅と移動身体
- 2 速度の人類学
- 3 宮本常一の身体性
- 4 速度とパノラマ的眺望
- 5 結論

第5章 博物館と住民参加

——「佐渡國小木民俗博物館」にみるローカルな文化運動

はじめに

- 1 運動拠点としての学校
- 2 小木民俗博物館
- 3 宮本常一の博物館指導
- 4 結論

第6章 宮本常一と幻の大学構想

——日本海からの叛逆

はじめに

- 1 鬼太鼓座と〈大学〉構想
- 2 日本海大学講座
- 3 島からのリアクション
- 4 拠点主義と若衆宿
- 5 都市のまなざしの壁
- 6 社会開発論と大学構想

第7章 自前の生活

——空と大地をめぐる青年たちの闘い

はじめに

- 1 政治の季節と民俗学
- 2 佐渡新空港建設反対運動
- 3 なぜ住民は反対をしたのか
- 4 おわりに

第8章 三里塚から佐渡へ

——ある運動家の生活史に見る宮本常一と民俗学

はじめに

- 1 三里塚にて
- 2 佐渡で生きる
- 3 学生運動と民俗学
- 4 おわりに

第9章 モノを介したソーシャルデザイン

——美大教員としての宮本常一と民家調査

はじめに

- 1 ランドスケープと町並み保存
- 2 モノを介した地域調査
- 3 エンパワメントとしての調査
- 4 おわりに

結論



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			門田岳久 著 宮本常一 〈抵抗〉の民俗学 —地方からの叛逆 ISBN978-4-7664-2903-9 C3039	3,300 円	★★★★

関連既刊（ぜひ併せてご注文ください!）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	岩本通弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・ 川松あかり 編 民俗学の思考法 —〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える ISBN978-4-7664-2731-8 C3039	定価(税込)
			発行所：慶應義塾大学出版会	1,980 円

★1つで「500部」を表します